

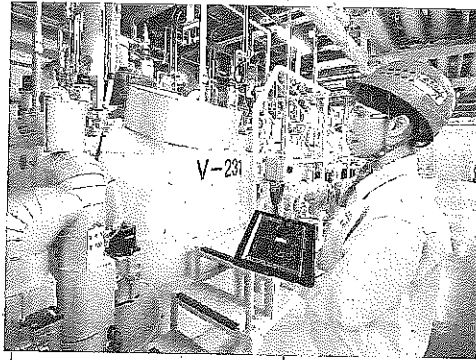
世界へ地域発



(日経 2018.10.29)

ジヒドロキシジフェニル
スルホン(DHDP S) |
小西化学工業(和歌山
市)の主力製品は聞き慣れ
ない物質だ。スーパーエン
ジニアリングプラスチック
(超高機能性樹脂)の原料
向けにこの数年で需要が急
増。用途は航空機の機体か
ら水処理膜まで幅広く、供
給先には世界の有力企業が
名を連ねる。

小西化学工業 高機能樹脂の原料



運転員がタブレット端
末で操作する福井工場
のDHDP S製造ライ
ン(福井県坂井市)

会社概要 1962年設立。小西弘矩社長の
父親で創業者の輝彦氏が独学で化学を学び人工
甘味料やメッキ工業用の有機化学薬品などの製
造を始めた。売上高は42億円(2018年3月
期)、従業員は122人。

の本社工場で年3600ト
生産していたが、2年前に
増産を決断。2017年12
月、福井工場(福井県坂井
市)に25億円を投じた年3
000トの新設備が完成し
生産能力はほぼ倍増した。

「一度しばみかけたPE
の高純度品の開発に成功。
83年に英化学大手ICIに
技術ライセンス供与を始め
た。耐熱性や絶縁性に優れ
たPE S樹脂は一時「夢の
素材」と持てはやされたが、
用途開発が進まずICIが
92年にPE S事業から撤退
した経緯がある。

「夢の素材」の事業委託を
持ちかけられたのは200
2年。用途は航空機向けが
本命だが、当時納入先は白
紙状態でリスクは高かつ
た。半年間迷ったが「高機
能を追求しなければ生き残
れない」と決断した。

03年に本社工場に年産5
00トのラインを設け生産
を始めたエポキシ樹脂は2
年後に米ボーイングの品質
認定を取得。新型旅客機「7
87」向けの需要が一気に
膨らみ、増産を迫られた小
西化学は13年、福井工場に
本社工場と同規模の生産能
力を持つエポキシ樹脂の新
ラインを開設した。

「夢の素材」再興担う

代表格はポリエーテルス
ルホン(PE S)樹脂。炭素
繊維強化プラスチックに配
合すると耐久性が高まり、
軽量化を図る航空機や自動
車などの部材として引っ張
りだ。同社はその原料と
なるDHDP Sを和歌山市

Sがよみがえった」と小西
弘矩社長は話す。1968
年にDHDP Sの生産を始
めた同社は世界トップ水準
を一段と高める「多官能工

複合材(CFRP)の強度
を一段と高める「多官能工
技術」を使ったスマート工

場化に取り組み。タブレッ
ト端末を使うプラント操作
のほか、オペレーターのヘ
ルメットに装着したカメラ
の画像を共有し、福井|和
歌山間で遠隔監視が可能な
システムを導入。運転要員
の無人化を目指している。

さらに和歌山を研究開発
拠点、福井を量産拠点とい
う機能分担を進める。9月
に本社工場内に電子材料や
光学材料の試作を専門とす
る専用プラントを新設。次
世代事業の足がかりを築き
ながら、海外での需要開拓
にも力を注ぎ、売上高に占
める海外向け製品の比率を
現在の25%から、2年後に
35%へ高める考えだ。

(編集委員 安西巧)